

■非機能要件一覧

大項目	中項目	メトリクス (指標)	要求目標等	補足説明等
可用性	継続性	RPO(目標 復旧地点) ※(業務停止時)	平常時、業務停止を伴う障害が発生した際には、障害発生時点(日次バックアップ+アーカイブ※からの復旧)までのデータ復旧を目標とすること。	RPO:業務停止を伴う障害が発生した際、バックアップしたデータなどから情報システムをどの時点まで復旧するかを定める目標値。
		RTO(目標 復旧時間) ※(業務停止時)	平常時、業務停止を伴う障害が発生した際には、1営業日以内でのシステム復旧を目標とすること。	RTO:業務停止を伴う障害(主にハードウェア・ソフトウェア故障)が発生した際、復旧するまでに要する目標時間。
		RLO(目標 復旧レベル) ※(業務停止時)	平常時、業務停止を伴う障害が発生した際には、一部システム機能の復旧を実施すること。	RLO:業務停止を伴う障害が発生した際、どこまで復旧するかレベル(特定システム機能・すべてのシステム機能)の目標値。
		システム再開目標(大規模災害時)	大規模災害時、システムに基大な被害が生じた場合、システムは、一ヶ月以内に再開することを目標とすること。	
		稼働率	年間のシステム稼働率は、99.5%を目標とすること。	
	災害対策	復旧方針	デスクアレイなどの外部記憶装置を物理的に複数台用意するなど、冗長性が確保された同一の構成で情報システムを再構築すること。	
		保管場所分散度	遠隔地へのデータ保管は、ベンダーによる提案事項とすること。	
		保管方法	大規模災害時のデータ保管方法は、ベンダーによる提案事項とすること。	
	業務処理量 性能・拡張性	ユーザ数	利用者数は、不特定多数のユーザが利用できること。	
		同時アクセス数	同時アクセス数は、不特定多数のアクセスを見込むこと。	
		データ量 (項目・件数)	データ量は、利用期間中に想定される申請手続の数や添付データの内容・種類等を勘案し、必要と想定されるデータ量を見込むこと。	
		オンラインリクエスト件数※	オンラインリクエスト件数は、仕様の対象としない。	オンラインリクエスト件数:単位時間ごとの業務処理件数。性能・拡張性を決めるための前提となる項目。
		バッチ処理件数	業務処理件数は、仕様の対象としない。	
		ユーザ数増大率	ユーザ数は利用期間中に想定される申請手続の数や添付データの内容・種類等を勘案し、想定される増大率を見込むこと。	
		同時アクセス※数増大率	同時アクセス数は、利用期間中に想定される申請手続の数や添付データの内容・種類等を勘案し、想定される増大率を見込むこと。	
		データ量増大率	データ量増大率は、利用期間中に想定される申請手続の数や添付データの内容・種類等を勘案し、想定される増大率を見込むこと。	
		オンラインリクエスト件数※増大率	オンラインリクエスト件数増大率は、利用期間中に想定される申請手続の数や添付データの内容・種類等を勘案し、想定される増大率を見込むこと。	
		バッチ処理件数増大率	バッチ処理件数増大率は、利用期間中に想定される申請手続の数や添付データの内容・種類等を勘案し、想定される増大率を見込むこと。	
	性能目標値	通常時オンラインレスポンスタイム	通常業務時のオンラインレスポンスタイムは、ベンダーによる提案事項とすること。	
		アクセス集中時のオンラインレスポンスタイム※	業務繁忙等によるアクセス集中時のオンラインレスポンスタイムは、ベンダーによる提案事項とすること。	
		通常時バッチレスポンス	通常時のバッチレスポンスタイムは、ベンダーによる提案事項とすること。	
		アクセス※集中時のバッチレスポンス	業務繁忙等によるアクセス集中時のバッチレスポンスタイムは、ベンダーによる提案事項とすること。	
運用・保守性	通常運用	運用時間(平日)	平日運用時間は、24時間利用を前提とすること。	
		運用時間(休日等)	休日運用時間は、24時間利用を前提とすること。	
		外部データの利用可否	データ復旧の際、外部データは利用できないとすること。	
		データ復旧の対応範囲	データ復旧の対応範囲は、障害発生時のデータ損失防止とすること。	
		バックアップ取得間隔	バックアップの取得間隔は、日次で取得すること。	
		監視情報	エラー監視(トレース情報を含む)を行うこと。	
	保守運用	OS等パッチ※適用タイミング	OS等のパッチについては、緊急性の高いパッチ※は即時に適用し、それ以外は定期保守時に適用を行うことを目標とする。	OS等パッチ情報の展開とパッチ適用のポリシーに関する項目。OS等は、OS、ミドルウェア、その他のソフトウェアを指す。

	運用環境	マニュアル準備レベル	運用マニュアルについては、各製品標準のマニュアルを利用すること。	
	サポート体制	保守契約(ソフトウェア)の種類	ソフトウェア保守は、ベンダーが実施すること。	
		ライフサイクル期間	ライフサイクル期間は、3年とすること。	
		報告内容のレベル	保守の定期報告は、ベンダーによる提案事項とすること。	
	その他の運用管理方針	問い合わせ対応窓口の設置有無	運用保守時の問い合わせ窓口については、ベンダーの既設コールセンターを利用すること。	
セキュリティ	前提条件・制約条件	遵守すべき規程、ルール、法令、ガイドライン等の有無	遵守すべき規程、ルール、法令、ガイドライン等は仕様書のとおりとする。	
	セキュリティリスク分析	リスク分析範囲	セキュリティリスク分析を実施する範囲は、重要度が高い資産を扱う範囲、あるいは、外接部分とすること。	
	セキュリティ診断	Web診断実施の有無	Web診断を実施すること。	
	セキュリティリスク管理	ウィルス定義ファイル適用タイミング	システム脆弱性等に対応するためのウィルス定義ファイルについては、定義ファイルリリース時に実施すること。	
	データの秘匿	伝送データの暗号化の有無	伝送データについては、すべてのデータを暗号化すること。	
		蓄積データの暗号化の有無	蓄積データの暗号化については、ベンダーによる提案事項とすること。	
	不正追跡・監視	ログ※の取得	ログの取得については必要なログを取得すること。	
		不正監視対象(装置)	不正監視対象は、重要度が高い資産を扱う範囲、あるいは、外接部分とすること。	
	Web対策	セキュアコーディング※、Webサーバ※の設定等による対策の強化	セキュアコーディング、Webサーバの設定等によりWebアプリケーション特有の脅威、脆弱性に関する対策を実施されていること。	
		WAF※の導入の有無	WAFの導入がされていること。	
システム環境・エコロジー	システム制約/前提条件	構築時の制約条件	システム構築時には、条例等の制約有り(重要な制約のみ適用)とすること。	
		運用時の制約条件	システム運用時には、制約有り(重要な制約のみ適用)とすること。	